

## 【共通する視点】 支援の垣根を越え、本人に必要な体験の機会を皆で協力して作ること

(資料2-2)

◆第1回作業部会 委員ご意見まとめ 「成人期の自立に向けて大切なこと」

### 【抽出項目】

◆大学就労機関ヒアリング調査

### 【関連する課題】

◆取り組みについてのアイディア

### 【各委員のご発言より】

#### I 安心できる関係づくり

マイナス経験が重なり、自己肯定感が低い  
安心できる人間関係を持っていることが本人の支えになる  
支援を必要とする人も支援する側に回ることによって自信をつけている

②居場所・仲間づくり／余暇支援  
⑤自己理解  
⑥家族支援  
⑦相談支援体制

保護者が本人について前向きに理解できるようなサポートをする  
保護者同士が学び合う場では、具体的な声かけなどをスタッフも入り話し合う  
困り感のない本人・保護者へは、日常のさりげない支援を積み重ねていく  
気になる子が困っている時にヒントをあげるなど頼ってもらえるようサポートを積み重ねる  
家族と支援者として連携しながら本人に働きかけている  
自分が好きなことを中心に心地良く居られる場所があることが大事  
当事者グループの余暇をサークル化する  
ゆっくりとお話をしながら、持っているエネルギーを高める関わりから始める

#### II 学齢期からの生活の土台作り

生活スキルを学ぶことが将来の自立につながる  
生活支援は働くための土台作り  
勉強だけでなく生活面など社会に出るために必要な経験を積む機会がある

①学業  
③進路選択  
②居場所・仲間づくり／余暇支援  
④生活スキル  
⑤自己理解  
⑥家族支援  
⑦相談支援体制

友達と普通に遊べる経験がある  
子供たちがやりたい遊びの中から学びを見つけていく経験がある  
大人からの適切な介入がある遊びの場で、楽しく遊べる経験ができる  
人に相談してよかったという経験を在学中に積めるような仕掛けづくり  
本人の気持ちや能力に合わせた、家族のさりげないサポートがあること  
生活に合わせてタイムリーに支援していくこと  
仕事について考える前に、活動できる状況を作ることが必要  
生活全体を見通しての支援が考えられるとよい  
調理や洗濯等、本人ができることから少しずつ取り組む

#### III 情報のアクセスしやすさ

適切な社会資源とマッチングできるような情報にアクセスできること  
本人の自己理解が促されるような相談の場についての情報が欲しい  
多様な生き方、働き方についてのロールモデルにアクセスできるとよい  
(念頭に置くべきこととして)  
本人たちの中に「社会に合わせたい」という根深い価値観がある

②居場所・仲間づくり／余暇支援  
③進路選択  
⑤自己理解  
⑥家族支援  
⑦相談支援体制

成人期の当事者と、自立に向けた勉強会を行う  
当事者がこれまで生活課題をどう乗り越えてきたか、工夫について言語化する  
生活のコツ(ライフハック)を一覧にして、相談に来た人に活用する  
サブカルチャーなどの遊びに詳しい若い世代にも余暇活動に入ってもらう  
多様な生き方があると、本人が知ることができるような情報の提供  
高校生や卒業生が、小中学生のロールモデルになっている  
高校見学等で実際に見る機会を通し、自分自身のこととして考えることができる

#### IV 具体的な経験の積み重ねと振り返り

知識の有無だけでなく、経験をすることで初めて自分事として考えられる  
本人がステップを踏みながら色々と経験を積める環境がある  
体験を一つずつ振り返ることを通して自己理解を深め、自信をつけていく

③進路選択  
④生活スキル  
⑤自己理解  
⑦相談支援体制

本人に合った作業で、ステップを踏みながら一つずつ取り組める環境がある  
実際の先輩の姿を見たり、高校や企業を見学に行く等、実際に知る機会がある  
作業を細分化し、できた所と工夫が必要な所を洗い出し、具体的に対応を考える